

日本の財政と軍事費

一、日本で、一九二九年から一九三一年まで強烈なデフレーション時代を経験した。これで當時の政府が金本位回復を目的として、計画的にとつた政策の結果であつた。政府は此目的の爲めに一九二九年から極力財政支出の減少を行つた。一九二八年度の支出十八億一千五百万圓は新しく一九三一年度には十四億七千七百万圓に減少した（附録第十八表）。日本の政府は此政策に依つて、日本の物價を下げ、當時世界的に起つてゐた不景氣に對抗し、日本の貿易のバランスを回復しようとしたのである。

併し、右の政策は、前に述べた如く、日本の經濟を非常に困難に陥れ、政治的危機をさへ醸成するに至つた。加へるに一九三一年九月には、英國の金本位停止があり、日本も到底デフレーション政策を繼續し難いことが明らかになつた。こゝに於て同年十二月内閣は交送せられ、新内閣（犬養内閣）は直ちに金本位を停止し、政策の轉換を計つた。

一九三二年から此新内閣が採つた政策は景氣の回復を圖る爲めの所謂リフレーション政策であつた。併し、當時まだ一般にはリフレーションといふ

辭が知られてゐなかつたので、これをインフレーション政策と稱した。即ち政府は、一九三二年度から財政支出を増加して、物資、勞力に對する需要を刺激し、以て所謂「完全雇傭」の實現を計つたのである。國內の物價はこれによつて騰貴して景氣は好轉した。而も、政府はこれと同時に圓の爲替相場の低落を或程度許したので、日本商品の輸出は容易になり、こゝに亦物資、勞力に對する需要を増加した。

日本政府の支出は、前に述べた如く、一九二一年度から一九三一年度まで減少したが、右に述べた政策の轉換により一九三二年度からは増加した。即ち第十八表によつて見るに、一九三一年度に十四億七千七百萬圓であつた支出合計は、一九三二年度から急速に殖え、一九三三年度には、二十二億五千五百萬圓に膨脹した。併し其後は一九三六<sup>年</sup>まで、即ち日支事變の發生する前年まで殆んど増加してゐないばかりか、一九三四年度及び三五年度には減少さへ悉した。景氣回復の目的は、財政の此の程度の膨脹によつて既に能く之を達し得たからである。また、財政支出の膨脹が一九三四年度以後抑制されたこの事實は、當時の日本政府が、他國と平和状態の維持を期待してゐたこと

を示すものである。尙又、此間の財政支出膨張の程度も、一九二〇年度から二八年度迄八年間の増加が四億五千五百万圓（三三・五％）であつたのに對して、一九二八年度から三六年度迄八年間のそれが、殆んど同額の四億六千七百万圓（二五・七％）であつたことを見れば、景氣回復を目的とした以外に何等異常のものではなかつた。

併し、一九三七年、支那事變の發生に伴つて其七月後の日本の財政状態は全く變つた。それは最早リフレイションを目的とするといふ如きものではなく全く事實上の戰時状態に入つたのである。臨時軍事費特別會計は設けられ、財政支出は急激に膨張した。

ニ 次に、日本の軍事費の變化を觀るに、第十九表の如く、一九二一年度には七億三千萬一百萬圓を算した。それが爾後遂後減少して一九二六年度には四億三千四百萬圓に下つた。而して其後は若干の増加を示したが、併し、それでも一九三一年には四億五千五百萬圓に止り、一九二一年度の金額には遙かに及ばなかつた。一九二一年はワシントンに軍備縮少會議があつた年で、加ふるに一九二九年からはデフレーション政策が行はれた爲めに、かたがた軍事費はかく減つたのである。實にこの十年間は日本に於ける軍備縮少時代であつた。軍備縮少の事實は、陸海軍の臨時費の減少によく現はれてゐる。なんとすれば軍備の補充乃至擴張は此臨時費によつて行はれるものであるからである。即ち、第十九表に依るに、陸軍の臨時費は、一九一九年度の一億二千萬圓から、爾後逐年減少して、一九二四年度には、僅かに二千七百萬圓に減じた。而して、其後少し増加したが、一九三〇年には再び二千六百萬圓に下つた。海軍の臨時費は一九二一年度に三億四千三百萬圓であつたが、翌年から急速に減少して、一九二五年度には一億七百萬圓を算するに過ぎなかつた。而して其後少しく増加したが、一九

二八年度より再び急激に減少し、一九三一年度には僅かに八千八百萬圓を消費したに止まつた。

滿洲事變が勃發したのは、一九三一年の九月であるが、一九三一年度に於ける臨時費は陸海軍共に一九二八年度のそれよりも僅少であつたことは注意を要する。今其陸海軍事費の總計に付て觀るに（第十九表）一九二八年度は五億一千七百〇〇萬圓、一九二九年度は四億九千五百萬圓であるのに對し、一九三一年度は四億五千五百萬圓であつた。

一九三二年度から、一九四〇年度に至る陸海軍の臨時費は漸次膨脹の傾向を辿つたがさして大きな増加は示してゐない。即ち第十九表の數字によつて検討するに、陸軍の臨時費は、一九三二年度の二億二千五百萬圓から一九三六年度には、三億一千九百萬圓に増加し、又海軍のそれは、同じ期間に一億七千二百萬圓から三億三千一百萬圓に膨脹した。併し此陸軍の臨時費の増加に付ては、此期間に陸軍が滿洲に於いてとつた軍事行動の經費を考慮に入れなければならぬ。又海軍臨時費の一九三六年度に於ける三億三千一百萬圓は、一九二一年度の三億四千三百萬圓に同及ばざるものであつた。

而して陸海軍臨時費に支那事變勃發の一九三七年度以後もさして急激な増加を示さず、陸軍のそれは一九三七年度に於いて一度四億三千一百萬圓に増加したが一九三八年度に於ては、却つて三億五千七百萬圓に減じ又海軍のそれも一九四〇年度に於いて漸く六億七千四百萬圓を示したに過ぎない。三臨事軍事費特別會計も亦一九三七年の設置以後一九四〇年迄は余り急激な

増加は示してゐない。今其中の兵器費をとつて觀察するに、第二十表の示す如く、陸軍のそれは一九三八年年度の十八億二千九百万圓を頂上として、一九四〇年度には十三億四千七百万圓に減少し、海軍の兵器費も一九三八年年度の六億六千八百万圓を最高として、一九三九年度には減少し、一九四〇年度には再び増加したが、七億九千四百万圓に止つた。

併し、一九四一年度以降、陸海軍の兵器費は、一九四〇年度とは比較にならぬ程飛躍的に増加した。同様の大増加は、第十九表に示す陸海軍専費の激増によつても示されてゐる。

上小の事實から判断すれば、日本の陸海軍は太平洋戦争が開始せられてから後始めて泥縄式に軍備の擴張を計つたことが知られたのである。

昭和二十二年（一九四七年）七月廿九日 於 山梨縣旭ヶ丘

供述者 石 橋 湛 山

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明  
シマス

同日於

立 會 人 右 田 政 夫



宣  
誓  
書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘セズ又何事ヲモ附加セザル  
コトヲ誓フ

署名捺印

石  
橋  
湛  
山  
印

(19) 軍事費累年表(百萬圓)

| 會計年度 | 陸軍省 |     |     | 海軍省 |     |     | 臨時軍事費 | 總計       |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|----------|
|      | 經常費 | 臨時費 | 合計  | 經常費 | 臨時費 | 合計  |       |          |
| 1912 | 80  | 24  | 104 | 42  | 54  | 96  | 0     | 200      |
| 1913 | 77  | 18  | 95  | 39  | 58  | 97  | 0     | 192      |
| 1914 | 72  | 15  | 87  | 30  | 53  | 83  | 0     | 171      |
| 1915 | 70  | 27  | 97  | 33  | 45  | 78  | 0     | 175      |
| 1916 | 73  | 21  | 94  | 43  | 71  | 114 | 0     | 211      |
| 1917 | 83  | 35  | 118 | 49  | 114 | 163 | 0     | 281      |
| 1918 | 95  | 37  | 132 | 55  | 161 | 216 | 0     | 348      |
| 1919 | 101 | 120 | 221 | 58  | 258 | 316 | 0     | 357      |
| 1920 | 159 | 87  | 246 | 111 | 292 | 403 | 0     | 350      |
| 1921 | 139 | 77  | 216 | 141 | 343 | 484 | 0     | 731 大正10 |
| 1922 | 179 | 52  | 231 | 130 | 244 | 374 | 0     | 605      |
| 1923 | 176 | 48  | 224 | 125 | 150 | 275 | 0     | 499      |
| 1924 | 179 | 27  | 206 | 125 | 124 | 249 | 0     | 455      |
| 1925 | 171 | 44  | 215 | 122 | 107 | 229 | 0     | 444      |
| 1926 | 168 | 29  | 197 | 127 | 110 | 237 | 0     | 434 大正15 |
| 1927 | 174 | 44  | 218 | 137 | 137 | 274 | 0     | 492      |
| 1928 | 168 | 81  | 249 | 143 | 125 | 268 | 0     | 517      |
| 1929 | 179 | 48  | 227 | 148 | 120 | 268 | 0     | 495      |

Def Doc No. 1762-A

|      |     |       |       |     |       |       |        |        |      |
|------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|--------|--------|------|
| 1930 | 175 | 26    | 201   | 147 | 95    | 242   | 0      | 443    |      |
| 1931 | 164 | 64    | 227   | 159 | 83    | 227   | 0      | 455    |      |
| 1932 | 148 | 225   | 374   | 141 | 172   | 315   | 0      | 688    | 昭和7  |
| 1933 | 166 | 296   | 463   | 179 | 231   | 410   | 0      | 875    |      |
| 1934 | 169 | 290   | 459   | 199 | 284   | 483   | 0      | 942    |      |
| 1935 | 180 | 317   | 497   | 216 | 320   | 538   | 0      | 1,033  |      |
| 1936 | 191 | 319   | 511   | 233 | 331   | 537   | 0      | 1,073  |      |
| 1937 | 161 | 431   | 591   | 273 | 372   | 645   | 2,034  | 3,271  |      |
| 1938 | 181 | 357   | 488   | 287 | 392   | 679   | 4,795  | 5,872  |      |
| 1939 | 186 | 629   | 825   | 288 | 517   | 804   | 4,844  | 6,474  | 昭和14 |
| 1940 | 171 | 1,081 | 1,192 | 360 | 674   | 1,034 | 5,723  | 7,949  |      |
| 1941 | 331 | 1,184 | 1,515 | 450 | 1,047 | 1,497 | 9,487  | 12,500 |      |
| 1942 | 16  | 40    | 56    | 9   | 13    | 23    | 18,753 | 18,832 |      |
| 1943 | 0,7 | 0     | 0,7   | 1   | 0     | 1     | 29,318 | 29,320 |      |
| 1944 | 0,7 | 0     | 0,7   | 1   | 0     | 1     | 73,495 | 73,497 |      |

典據：大藏省發表 決算

Def Doc No. 1762-A

11

(20) 臨時軍事費中兵器費(百万圓)

|      | 陸 軍<br>(兵器費) | 海 軍<br>(造船造兵<br>及修理費) | 軍需省<br>(兵器費) |
|------|--------------|-----------------------|--------------|
| 1937 | 837          | 321                   | 0            |
| 1938 | 1,829        | 668                   | 0            |
| 1939 | 1,448        | 547                   | 0            |
| 1940 | 1,347        | 794                   | 0            |
| 1941 | 3,526        | 2,538                 | 0            |
| 1942 | 2,944        | 4,160                 | 0            |
| 1943 | 4,207        | 8,932                 | 2,000        |
| 1944 | 5,919        | 9,220                 | 7,064        |

典 據：本表は大蔵省臨時軍事費特別會計始  
末第8號表に依る

( 18 ) 日 本 政 府 歳 出 ( 百 万 圓 )

| 會計年度<br>( 4 月 - 3 月 ) |      | 一般會計     | 臨時軍事費  | 合計      |
|-----------------------|------|----------|--------|---------|
|                       | 1920 | 1, 360   | —      | 1, 360  |
| 3                     | 1928 | 1, 815   | —      | 1, 815  |
|                       | 29   | 1, 736   | —      | 1, 736  |
|                       | 30   | 1, 558   | —      | 1, 558  |
| 6                     | 31   | 1, 477   | —      | 1, 477  |
|                       | 32   | 1, 950   | —      | 1, 950  |
|                       | 33   | 2, 255   | —      | 2, 255  |
|                       | 34   | 2, 163   | —      | 2, 163  |
| 10                    | 35   | 2, 206   | —      | 2, 206  |
|                       | 36   | 2, 282   | —      | 2, 282  |
| 12                    | 37   | 2, 709   | 2, 034 | 4, 734  |
|                       | 38   | X 2, 970 | 4, 795 | 7, 765  |
|                       | 39   | X 3, 959 | 4, 844 | 8, 803  |
|                       | 40   | X 5, 260 | 5, 722 | 10, 982 |
| 16                    | 41   | X 7, 056 | 9, 487 | 16, 543 |

Notes: X 1938-41の一般會計歳入出中から  
は臨時軍事費への繰入金を除く

典據: 大藏省記録

證 明 書

自分は大蔵省理財局調査課長の職に在るが、ここに添附の日本政府歳出（第十八表）、軍事費累年表（第十九表）及び臨時軍事費中兵器費（第二十表）と「する書面は、いづれも大蔵省主計局の公文書に基き、當局で作成したものの眞實かつ正確を寫してあることを證明する

昭和二十二年八月八日

於 千代田區内幸町 大蔵省別館

大蔵省理財局調査課長

小 栗 銀 三

右の署名捺印は小生の面前においてなされたものなることを證明する

同日 於 同 所

立 証 人 右 田 政 夫